

Rotary



OKAYA

岡谷ロータリークラブ

- 会長／小口泰史
- 副会長／中村文明・林 尚孝
- 幹事／山崎典夫
- 会報委員長／梅垣和彦

■ 事務所／岡谷市中央町 1-4-1 ・ Tel/0266-22-6939 ・ Fax/0266-23-6939

URL: okayarc.org ・ Email: okayarc@bz04.plala.or.jp

■ 例 会／毎週火曜日 PM12:30 ホテル岡谷

## 第 2751 回例会 2016 年（平成 28 年）5 月 17 日(火)

### 早朝例会 ～清掃作業・小鳥鑑賞会～

於：塩嶺閣 午前 6 時 30 分

#### 会長挨拶



おはようございます。本日は塩嶺公園にて、バードウォッチングをする早朝例会です。

残念ながら、雨降りになってしまいました。一週間前の週間天気予報でも本日の早朝は、雨マークでした。天気予報が外れる事を期待いたしましたが、最近の天気予報はかなり確実性をましている事が、今日は残念です。

昨年の中頃に、山崎幹事が一年間の例会予定を立案した時には丁度、下社の御柱祭の里引きの終了後に早朝例会を予定となっていましたので、御柱祭にてお疲れ気味の皆様方には、朝のすがすがしい風と心いらされる小鳥のさえずりで、疲れをとって頂けるのかなと思っておりましたが、それも叶いそうにありません。

塩嶺閣の室内にて、日本野鳥の会の林先生のお話をお聞きして、本日の例会とさせていただきます。



#### 卓話「塩嶺 小鳥の森について」

日本野鳥の会 諏訪  
会長 林 正敏 様

雨天のため、清掃活動、小鳥鑑賞は中止。

塩嶺閣にて塩嶺小鳥の森の歴史や小鳥バスについて林先生より、大変貴重なお話を伺いました。

日本一の三高峰 富士山・北岳・奥穂高岳 が望める!!

信州岡谷  
塩嶺

小鳥バス  
ガイド



お楽しみして  
小鳥のバスに乗って  
歩いていたら  
小鳥たちの歌声が聞こえたら  
可愛いくて癒えて  
みんなにこにこしていいよ

岡谷

岡谷市



(昭和25年頃のバス)



(現在の小鳥バス)

走り続けて半世紀を経過した「小鳥バス」

野鳥の生息に適した塩嶺一帯は、渡り鳥など多くの鳥がいて戦前から戦後の昭和23年ころまで、渡り鳥用のカシミ網罟が行われた鳥屋敷(とやば)があった場所でした。当時、塩嶺の活用を考えていた岡谷市は、「自然の素材を生かした公園づくりが望ましい」とした専門家の診断結果から、市議会全員協議会に地元の野鳥研究者で、教員だった故小沢万栄さんを招いて意見を求め、ここで「小鳥バス」が発案され、昭和29年に、日本野鳥の会諏訪支部の主催で始まりました。運行当初は5月から7月までの3ヵ月間でしたが、15回目からは5月と6月の2ヵ月間の毎週日曜日となりました。小鳥のコースを楽しみながら自然を学ぶユニークな催しの知名度は高まって、小鳥バスファンも増えました。25回目からは事業も岡谷市に移管され、今では市の風物詩。「小鳥バス」は俳句の季節ともなりました。この事業の定着などにより、環境省は未来に残すべきとして、塩嶺の野鳥のさえずりを「日本の音風景100選」に認定しました。

歴史のなかの「塩嶺」とは

塩嶺とは略称で正しくは塩尻峠。峠には講談筋とも言われ、主要な街道だった旧中山道があり、峠の頂上の由来は日本海の塩と太平洋の塩が混ざった、終点を意味した所とされています。この峠はまた戦国時代の古戦場です。天文十一年(一五四〇)七月十九日、甲斐の武田信玄、松本的小笠原長時が合戦しました。この時に陣取った小笠原軍は約五千、下諏訪に陣を構えた武田軍約七千、この戦いで武田軍は約百五十人討たれたが、小笠原軍はこの何回もの巨大な兵を失って敗退したといわれています。この合戦は重要な戦いになったと伝えられています。また中山道は、文久元年(一八六〇)十月五日、皇女和宮が将軍家に嫁ぐ際にお通りになった峠です。後に明治天皇、昭和天皇が立ち寄られ、風光明媚な景観を愛された御立(おのたて)公園である高い場所となりました。

自然の景観は



標高1020メートルの塩嶺御野立公園は、国立公園八ヶ岳中信高原の一角にあります。ここからは眼下の諏訪湖、その左に八ヶ岳連峰、右奥には南アルプスが望め、その中間に日本一の富士山(3775.6m)の眺めがあります。また第二峰の北岳(3192.4m)、第三峰の奥穂高岳(3190m)といった我が国の3高峰が見える所です。薬師らしい眺望は多くの人の感動を呼び、江戸時代には安藤広重が「富士三十六景」のひとつに、ここからの風景を写し絵に残しています。

起伏がゆるやかな公園内は、短時間で一周できます。ゆっくり歩いて自然を楽しみながら植物や昆虫、野鳥など生き物を観察してみませんか。ふだん気がない生き物の姿に、改めて感動することでしょう。また園内には、「小鳥バス」にちなんで建てられた文学碑もあります。鑑賞してみてください。



中西悟堂の歌碑



小鳥バス十周年の記念として、おのがじし朝光(あさかげ)に立つ未々々ありて奥処(おくど)はふかしもろどりのこま

中西悟堂(明治28年-昭和50年)石川県生まれ。昭和九年に日本野鳥の会を創設し、空気疎になる表裏の焼石、かすみ酒風の寝止る鳥園の保護活動に力を尽くしました。「野鳥」(探鳥会)など野鳥記など百篇を超える著書があり、昭和五十二年には文化功労者に選ばれました。

水原秋桜子の句碑



水原秋桜子(明治25年-昭和56年)東京都の生まれ。医学博士。関東大震災と東京大空襲の二回にわたり病院と自宅を消失。俳句は高浜虚子に影響を受け、後に「馬酔木」(あしび)を主宰、日本芸術院会員としても活躍しました。全集21巻は小多くの句集も残り、昭和42年に熊三等瑞宝章が贈られました。

**塩嶺の植物たち**  
高木の樹木では常緑樹のアカマツやスギが、また落葉樹ではミズキ、コナラ、カエデ、クリ、ヤマザクラなどがあり、香の新緑は美しい。地上にはスミレ類やフデリンドウなど愛らしい野草が可憐な花を咲かせます。

**フデリンドウ(リンドウ科)**  
高さ5~8cmほどの小さな野草。花が開いた茎が茎のように見えるためこの名がある

**ヒゴスミレ(スミレ科)**  
ハート型の葉が多いスミレ科の中で、この種の葉は5つに細かく割れて風変わり

**ホオノキ(モクレン科)**  
広葉樹のなかでも最大級の葉、そして素晴らしい香りの花も直径15cmと見事

**トチノキ(トチノキ科)**  
手指を広げたような大きな葉、トチの実リスなど動物にとって大切な食料となる

**モミジチコ(バラ科)**  
モミジのような葉、白い花。6月下旬には実が熟し、黄色いイチゴが食べられる

小鳥バス二十五周年の記念として、(あしび)ゆき森に田を越ゆる

水原秋桜子

森の常連たち

森には、小鳥の森に生息する野鳥はこれまでに百十種が確認されています。その中で二年を過ごして見られる留鳥は二十種余り、繁殖期間には四十種余りが観察されます。



キツツキ(キツツキ科) 樹皮を啄んで木中の虫を捕る。山には一人一羽の鳥で、繁殖するときはペアで行動する。



ウグイス(ウグイス科) 緑がかった灰褐色で体は黒い。喉は赤い。さえずりは「ウグイス」の音で、繁殖期には「ウグイス」の音で鳴く。



アカゲラ(キツツキ科) 黒い頭と赤い胸が特徴。木を叩いて木中の虫を捕る。さえずりは「ツツツツツツ」の音で、繁殖期には「ツツツツツツ」の音で鳴く。



イカル(アトリ科) ちんぱんが長く太く、脚や爪は黄色い。さえずりは「キョーキョー」とよく鳴く。



シジュウカラ(シジュウカラ科) のどから喉にかけて黒い縞が特徴で、さえずりは「ツツピー、ツツピー」と鳴く。



ヒヨドリ(ヒヨドリ科) 全身が灰色で、胸は赤い。さえずりは「ヒヨ、ヒヨ」と鳴く。



エナガ(エナガ科) 小鳥の中でも特に小さいが、尾は長い。鳴きは「チー、チー」と鳴く。



オオムシクシ(オオムシクシ科) 体長は約10cm。さえずりは「ムシ、ムシ」と鳴く。

夏鳥たち

冬季に南アジアなど暖かい国へ渡って過ごしていた「夏鳥」たちが、初夏の「小鳥の森」にもたくさん飛来してきます。その中には美しいの姿もたくさんいます。



コムリ(ツグミ科) 雄の背は赤褐色だが、淡みの中では赤い。さえずりは「ツツツツツツ」の音で、繁殖期には「ツツツツツツ」の音で鳴く。



オオムシクシ(オオムシクシ科) 体長は約10cm。さえずりは「ムシ、ムシ」と鳴く。



クロツグミ(ツグミ科) 雄は胸から上は黒、白い腹には黒い斑がある。さえずりは「ツツツツツツ」の音で、繁殖期には「ツツツツツツ」の音で鳴く。



オオムシクシ(オオムシクシ科) 体長は約10cm。さえずりは「ムシ、ムシ」と鳴く。



オオムシクシ(オオムシクシ科) 体長は約10cm。さえずりは「ムシ、ムシ」と鳴く。



オオムシクシ(オオムシクシ科) 体長は約10cm。さえずりは「ムシ、ムシ」と鳴く。



オオムシクシ(オオムシクシ科) 体長は約10cm。さえずりは「ムシ、ムシ」と鳴く。



オオムシクシ(オオムシクシ科) 体長は約10cm。さえずりは「ムシ、ムシ」と鳴く。



オオムシクシ(オオムシクシ科) 体長は約10cm。さえずりは「ムシ、ムシ」と鳴く。



オオムシクシ(オオムシクシ科) 体長は約10cm。さえずりは「ムシ、ムシ」と鳴く。



オオムシクシ(オオムシクシ科) 体長は約10cm。さえずりは「ムシ、ムシ」と鳴く。



オオムシクシ(オオムシクシ科) 体長は約10cm。さえずりは「ムシ、ムシ」と鳴く。



オオムシクシ(オオムシクシ科) 体長は約10cm。さえずりは「ムシ、ムシ」と鳴く。

夜の...

夜の森では、昼間とは違った生き物たちが上空や地上で生きる動物たちとは...



トラツグミ(ツグミ科) ツグミの中で最も大きく、全身に黒い斑の美しい模様がある。鳴きは「ツツツツツツ」の音で、繁殖期には「ツツツツツツ」の音で鳴く。

タヌキ(イヌ科) 漢字では狸というように、昔は日本の人間の仲間にも見られる動物だが、現在は自分では熊やクマなどの古語を使っている。

キジ(キジ科) 日本の「国鳥」で有名だが、現在は野鳥の代表動物である。雄の尾は非常に長い。鳴きは「キキキキ」の音で、繁殖期には「キキキキ」の音で鳴く。

オオムシクシ(オオムシクシ科) 体長は約10cm。さえずりは「ムシ、ムシ」と鳴く。

オオムシクシ(オオムシクシ科) 体長は約10cm。さえずりは「ムシ、ムシ」と鳴く。

オオムシクシ(オオムシクシ科) 体長は約10cm。さえずりは「ムシ、ムシ」と鳴く。

留鳥として いろいろな鳥も



オオムシクシ(オオムシクシ科) 体長は約10cm。さえずりは「ムシ、ムシ」と鳴く。



オオムシクシ(オオムシクシ科) 体長は約10cm。さえずりは「ムシ、ムシ」と鳴く。

森は

森には、小鳥の森に生息する野鳥はこれまでに百十種が確認されています。その中で二年を過ごして見られる留鳥は二十種余り、繁殖期間には四十種余りが観察されます。

オオムシクシ(オオムシクシ科) 体長は約10cm。さえずりは「ムシ、ムシ」と鳴く。

オオムシクシ(オオムシクシ科) 体長は約10cm。さえずりは「ムシ、ムシ」と鳴く。

オオムシクシ(オオムシクシ科) 体長は約10cm。さえずりは「ムシ、ムシ」と鳴く。

オオムシクシ(オオムシクシ科) 体長は約10cm。さえずりは「ムシ、ムシ」と鳴く。

